

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	1日研修旅行やクラスマッチなど特色ある行事等の特別活動と部活動を充実させ、生徒の諸活動の活性化を推進する。「総合的な探究の時間」を充実した内容に企画し、定時制と社会の結び付きや進路意識や職業観の育成の重要性の理解を促す。学級活動、学校行事、部活動に積極的に取り組む生徒が自己有用感を向上させることが多いため、本校の五常の教えを踏まえ、継続して生徒の主体性を大切にする教育活動を推進する。	A	A	ほぼ全員が本校の特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる。学校行事や総合的な探究の時間等の全学年生徒が関わる活動が予定どおり行われ、生徒たちの社会性が向上している。	A	A	生徒アンケートA+B評価は97%である。来年度も生徒たちと社会の結び付きを深められるような学びに取り組むたい。	
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。		A	A	主体的に生徒たちが話し合う場が生徒会活動や総合的な探究の時間等で増えたことで、自己有用感が育まれている。今後も上級生をリーダーとした学年縦割りグループによる活動を工夫したい。	A	A	生徒アンケートA+B評価は90%である。様々な教育活動を通して、自己有用感を感じているようである。来年度も生徒の学びに向かう力を育めるような教育活動を構築したい。	
		③ 三修制を利用して、95%以上の生徒が3年間で卒業している。		A	A	三修制は本校の大きな特徴であり、説明会等を通して、生徒・保護者の理解を促す。また、学校に軸足を置いた生活習慣の確立を継続的に指導し、保護者とも協力しながら長欠者・退学者を出さない環境づくりに努める。	A	A	三修制への理解はほぼ全員が深めている。今後も、保護者や地域の方々と連携を図りながら、充実した学校生活を構築したい。	A
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすく、授業によって学力が身につけている」と思う生徒が80%以上である。	学力の3要素のバランスのよい授業展開を意識し、新しい学びのための授業改善に組織的・計画的に取り組む。また、授業外の個別指導や長期休暇中の補習を充実させ、生徒の個性や個別最適な学びを意識した指導を進める。	A	A	生徒たちの評価は80%を超え、高い数値を示している。3年生を中心に夏季補習等で個別最適化学習を進めることもできた。今後もICTの活用や個別指導などを充実させたい。	A	A	生徒授業アンケートA+B評価は95%を超えている。長期休業中の課外補習等で、個別最適化学習を進めることもできた。来年度はスタディサプリやICTを活用した個別指導を進め、更に工夫を重ねたい。	
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。		⑤ 成績不振者は全生徒の5%以下である。	A	A	1学期末成績不振者は長期欠席者の1名(全体の3%)のみであった。保護者面談を行い、今後の高校生活について家庭での協力をお願いした。	A	A	2学期末成績不振者は4名(全体の12.5%)であった。いずれも欠席が多いことが原因である。保護者面談を行い、家庭での協力をお願いした。すでに1名が原級留置が決まっているが、他の3名は進級できるように指導したい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒に関する情報交換を週1回以上実施している。	組織的な対応を前提として、情報交換による共通理解が当たり前になる、風通しの良い職場環境をより一層整備していく。	A	A	毎日の打ち合わせや職員会議にGoogle Classroomを活用することで、いつでもどこでも迅速で正確な情報交換ができた。職員間の率直な意見交換をさらに進め、生徒の現状把握に努めたい。	A	A	日頃から、生徒情報の共有は頻繁に行うことができた。ICT活用による打ち合わせや職員会議も職員全員が無理なくできている。来年度はさらに意見交換を深めたい。	
		⑦ 生徒会活動が充実していると評価する生徒が80%以上である。		A	A	生徒会活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は90%と非常に高い数値である。今後も感染症対策を徹底し、生徒主体の学校行事を運営したい。	A	A	生徒学校アンケートA+B評価は87%である。今後も感染症対策を徹底し、生徒主体の学校行事を運営し、生徒の達成感を感じさせたい。	
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。		⑧ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A	A	9月末現在のいじめ案件は0件である。日頃から職員が生徒ひとり一人をよく観察し、適切な声かけができていないかと考えている。今後も継続したい。	A	A	1月末現在のいじめ案件は0件である。生徒と職員の距離が近く、相談しやすい体制が確立されている。また、職員間の情報共有も確実に実行されていることも要因だと考えられる。今後も継続したい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑨ 欠席、遅刻者数は、定時制課程としては極めて低い状態。全生徒数の5%以下である。	基本的な生活習慣の確立に向けて遅刻、欠席、早退を減らす指導を、家庭の協力を得ながら継続していく。スクールカウンセラー制度も必要に応じて積極的に活用し、外部機関との連携も重視する。	B	B	1学期は欠席率6%であった。昨年度同時期比は1ポイント減少した。1年生に1名長期欠席者がおり、家庭と密に連絡を取り指導している。	B	B	2学期までの欠席率6.6%となり、やや増加してしまった。家庭やスクールカウンセラーとの連携を密にして、改善を図りたい。また、外部機関との連携も進めており、組織的な対応を継続したい。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		⑩ 進路通信等を月1回発行する。	A	A	進路通信は予定どおり月1回内容を精選しながら発行できた。また、高崎での進路イベントに2、3年生生徒が参加し、進路意識が向上した。今後も二者面談等を行いながら進路希望を把握したい。	A	A	進路通信を毎月発行し、様々な角度からの進路情報を提供できた。また、進路イベントや卒業学年からの進路報告会、キャリア教育講演会等を実施できた。今後も外部との連携によるキャリア形成を図りたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑪ 家庭での話し合いを促し、生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	学校からの配布物が保護者に渡るように連絡を徹底するとともに、面談等を通して進路に関する家庭内での話し合いを促す。生徒と保護者が同じ視線で進路を見つめることができるように支援をしていく。	A	A	保護者に理解されていると回答した生徒は81%であり、生徒の希望を理解していると回答した保護者は95%であった。相互の理解度が近づくように今後も面談や情報提供を継続し、家庭での話し合いを促したい。	A	A	保護者学校アンケートA+B評価は81%である。生徒アンケートでは84%なので、共に数値は高いが一部、進路方向に対する意見が合わない家庭もあるので、面談等を繰り返す必要がある。	
		12 好ましい職業観を育成するよう、在学中に就業体験をした生徒が80%以上である。		⑫ 好ましい職業観を育成するよう、在学中に就業体験をした生徒が80%以上である。	C	C	1年生での未就業経験者が多く、やや低調な数値となった。2学期には利根沼田企業インターンシップが予定されており、働くことの意義や社会性向上を身に付けさせたい。	C	C	アルバイトを含めた在学中の就業経験者は数値的な変化が見られず、1年生を中心に就業経験が多い。行政機関と地域企業へのインターンシップを全員が体験できた。未就業生徒への働くことへの意識向上のために来年度も継続させたい。
		13 学校便り等(5:30新聞及び5:30新聞ミニを含む)を月1回以上発行する。		⑬ 学校便り等(5:30新聞及び5:30新聞ミニを含む)を月1回以上発行する。	A	A	5:30新聞ミニや保健だより、進路通信等で学校からの情報発信を積極的におこなっている。保護者の満足度は95%と昨年度より7ポイント上昇した。今後も内容を充実させて、発行を続けたい。	A	A	保護者学校アンケートA+B評価は100%である。紙での発信だけでなく、HPやブログ等の様々なコンテンツを活用して、今後も内容を充実させたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑭ ホームページの更新を毎月実施する。	・全日制と連携しながら、定時制のホームページを適宜更新し、より一層の情報発信に努める。また、必要に応じてHPのレイアウトなどを工夫し、より見やすい工夫をしていく。 ・保護者面談、公開授業、学校見学の随時受入を継続して行う。沼高定時制の広報に努め、中学校訪問も随時実施する。	A	A	毎月の5:30新聞ミニのHP掲載や毎週更新を原則としている定時制のブログ「笑顔の5:30」により、授業や行事、日常の学校生活の様子をわかりやすく発信している。今後も内容を充実させて、タイムリーな情報発信をしたい。	A	A	毎月の5:30新聞ミニ・進路通信「船出」のHP掲載により確実に更新できた。また、定時制のブログ「笑顔の5:30」が入学希望者に定着している。今後はさらに内容を充実させて、学校の雰囲気や伝えたい。	
		15 保護者面談の他、公開授業を年2回以上行う。		⑭ 保護者面談の他、公開授業を年2回以上行う。	A	A	6月に保護者面談及び三者面談、保護者限定の公開授業を実施した。11月には中学校教員や中学生に授業を公開することとなっている。また、全日制職員と協力した中学校訪問への資料提供を行いたい。	A	A	6月に保護者面談及び三者面談、11月に中学生等への公開授業を実施した。また、全日制職員と協力して中学校訪問を実施した。今後も定時制教育の魅力について情報発信を行いたい。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。		⑮ ICTを活用した教育活動に80%以上の生徒が満足している。	A	A	学校生活全般にChromebookを活用した。授業や各種アンケートはもちろん、総合的な探究の時間や学校行事、進路指導でも活用し、情報共有や小論文指導ができた。	A	A	学校アンケートA+B評価は生徒が94%、保護者が96%である。授業はもちろん、総合的な探究の時間や個別の小論文指導等にも活用し、効率的な学びを構築できた。今後、さらに情報リテラシーの意識向上を図りたい。
		⑯ ICTを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・対面では伝えにくいこともオンラインだとできる生徒も増えている。Google Classroomやオンラインチャットなどの様々な連絡ツールを持つことで、学校と家庭の信頼関係を強くする。	A	A	様々な連絡ツールを構築できた。Google Classroomのスマホ連携やブログの存在も大きいと考えられるので、さらに内容を充実させて継続していきたい。	A	A	ICTによる通知手段としてGoogle Classroomだけでなく、オンラインチャットも導入したがやや未読の保護者が多いことが課題である。今後、満足度が100%となるように既読率を向上させる取り組みをした。	